

平成二十三年度 密教文化研究所だより

今年度の定例の合同研究会（課題「弘法大師の思想とその展開に関する研究」、「密教の形成と流伝に関する研究」、「密教と現代社会の諸問題に関する研究」）、及び学術交流会、講演会、輪読会は、左記の通りである（詳細は高野山大学HPに掲載）。

○密教文化研究所研究会

第1回7月7日（木）

鈴木晋怜「脱世俗化社会における伝統教団の役割」

第2回7月14日（木）

佐藤隆彦「引導作法の形成と展開」

第3回9月27日（火）

井上ウイマラ「マインドフルネス瞑想の臨床への応用可能性」

第4回11月17日（木）

大塚伸夫「初期密教時代にみられる二系統の密教化潮流について」

第5回12月1日（木）

森雅秀「灌頂研究の現在」

森崎雅好「自殺ハイリスク地での自殺防止活動と調査研究」

第6回12月15日（木）

下西忠「近松の遍路」

中村本然「道範の生没年について」

第7回2月21日（火）

室寺義仁「仏教瞑想に係わるパーリ聖典用語について」

—『四念処』『四梵住』『無我と非我』『無常』『苦』—

船山徹「漢訳語『毘婆沙』の意味と問題点」

○密教文化研究所学術交流会

4月26日（火）「ロナルド・デービッドソン博士（米国フェアフィールド大学教授）を囲む学術交流会」

○密教文化研究所講演会

第1回10月4日（火）

講師 アルボムツレ・スマナサーラ（スリランカ上座仏教長老）

内容「初期仏教における『真言』とは？」

第2回11月15日（火）

講師 河正子（NPO法人緩和ケアサポートグループ代表）

内容「スピリチュアルペインとケアの研究—個人的あゆみを中心に—」

○密教文化研究所輪読会

テキスト『三教不斉論』

平成二十三年度は密教文化研究所受託研究員として、二十名、淵田雲溪（高野山大学講師）、菊谷竜太（東北大学助教）、サンニヤ・ユルコヴィッチ・シュミット（Sanja Jurkovic-Schmidt）、川崎一洋、中谷征充（以上三名、高野山大学大学院博士後期課程修了、博士（密教））、石部道明、神田英昭、真田尊光、柴谷宗叔、徳重弘志、野口博司、平賀由美子（以上七名、高野山大学大学院博士後期課程単位取得退学）、辻村優英（京都大学大学院博士後期課程修了、博士（人間・環境学））、上野康弘、大観慈聖（以上二名、京都大学大学院博士後期課程単位取得退学）、坂口太郎（京都大学大学院人間・環境学研究科博士後期課程）、大柴清圓（中国国立中山大学中国語文学系古文字学専攻博士課程修了、文学博士）、石井榮一（高野山大学大学院修士課程（通信）修了）、スワンソン・エリック・春希（Swanson Eric Haruki）、高野山大学大学院修士課程修了）、パオラ・デイ・フェリーチェ（Paola Di Felice、イタリア）、各氏を受け入れている。

高野山大学では密教文化研究所初代所長中野義照博士の業績を顕彰するため、平成十二年から「中野義照博士奨学金」を設けている。平成二十三年度は四件の申請があったが、第2回密教文化研究所協議会において選考の結果、採択者なしと決定した。

密教文化研究所構成員名簿（平成二十四年二月現在）

所長	中村 本然（文学部教授）
専任研究所員	加納 和雄（文学部助教）
兼任研究所員	南 昌宏（文学部准教授）
	乾 仁志（文学部教授）
	井上ウイマラ（文学部准教授）
	佐藤 隆彦（文学部准教授）
	下西 忠（文学部教授）
	野田 悟（文学部助教）
	室寺 義仁（文学部教授）
	森崎 雅好（文学部助教）
委託研究員	池田 将則（龍谷大学大学院博士後期課程修了、博士（文学））
	大塚 伸夫（大正大学准教授）
	倉本 尚徳（龍谷大学アジア仏教文化研究センター博士研究員）
	斎藤 明（東京大学大学院教授）
	静 春樹（高野山大学講師）
	鈴木 晋伶（智山伝法院常勤教授）
	藤井 淳（駒澤大学講師）
	船山 徹（京都大学教授）
	村田 みお（京都大学大学院博士課程）
	森 雅秀（金沢大学教授）
	トーマス・ドライトリン（高野山大学講師）
顧問	松長 有慶（名誉教授）
事務室長	田寺 則彦

『密教文化研究所紀要』編集委員会規程

- 第1条 密教文化研究所（以下「研究所」という。）に、『密教文化研究所紀要』（以下「紀要」という。）編集委員会（以下「編集委員会」という。）を設ける。
- 第2条 編集委員会は、次の委員をもって構成する。
- (1) 研究所長
 - (2) 専従研究所員
 - (3) 「紀要」編集担当者
- 2 編集委員長は研究所長がこれに当たるとする。研究所事務室長は、幹事として編集委員会の事務を処理する。
- 第3条 編集委員会は研究所長が招集し、その議長となる。議長に事故ある時は、互選によって議長を選出する。
- 第4条 編集委員会は、次の事項を審議し、研究所協議会に報告する。
- (1) 「紀要」に寄稿された原稿の掲載の可否および掲載の時期の決定。
 - (2) 「紀要」寄稿者への補筆および修正の要請。
- 第5条 委員の任期は1年とする。ただし重任を妨げない。
- 第6条 この規程の改廃は、研究所協議会の議を経て、研究所長が決定する。
- 附 則
- 1 この規程は、平成九年四月一日から施行する。
 - 1 この規程は、平成一四年五月二二日から施行する。

『密教文化研究所紀要』寄稿規程

- 第1条 『密教文化研究所紀要』（以下「紀要」という。）は、日本およびアジア地域などにおける密教の思想と文化に関する研究論文、研究ノート、研究資料、書評などを掲載発表することにより、密教文化の研究の発展に寄与することを目的とする。
- 第2条 「紀要」に寄稿することができる者は、次のとおりとする。
- (1) 研究所長
 - (2) 研究所員
 - (3) 研究員
 - (4) 編集委員会が適当と認める者
- 第3条 原稿は、原則として四百字詰原稿用紙七十枚以内とする。
- 第4条 原稿は完全原稿とする。執筆者校正は再校までとし、校正時の大幅な変更・追加等は認めない。
- 第5条 寄稿された原稿は、査読委員会の査読を経て、編集委員会が掲載の可否および掲載の時期を決定する。また、編集委員会は、寄稿者に補筆および修正を求めることができる。
- 第6条 原稿料の支払い、掲載料の徴収は行わない。
- 第7条 寄稿者には、掲載誌二部および抜刷三十部を贈呈し、その経費は研究所が負担する。
- 附 則
- 1 この規程は、平成九年四月一日から施行する。

執筆者紹介（掲載順）

中谷 征充 密教文化研究所受託研究員

（高野山大学大学院博士後期課程修了、博士（密教学））

坂口 太郎 密教文化研究所受託研究員

（京都大学大学院人間・環境学研究科博士後期課程）

辻村 優英 密教文化研究所受託研究員

（京都大学大学院博士後期課程修了、博士（人間・環境学））

静 春樹 密教文化研究所受託研究員

（高野山大学講師）

大塚 伸夫 密教文化研究所受託研究員

（大正大学准教授）

編集後記

『高野山大学密教文化研究所紀要』第二十五号には、中谷征充、坂口太郎、辻村優英、静春樹、大塚伸夫、各師の論文を掲載した。

平成二十三年度、高野山大学は藤田光寛新学長、密教文化研究所は中村本然新所長が就任し、新体制が発足した。

大学の教育研究の改革・改善を進める上で、附置研究所に課せられた使命はまことに重大であると言えよう。

密教文化研究所の事業として、昨年十月に『電子版弘法大師全集』、そして本年二月に『電子版真言宗全書』を刊行した。

来年度には『電子版続真言宗全書』も発刊の運びとなっている。

上記の電子版に収録された書籍百六冊を全て冊子で購入すると、百万円近い費用が必要となるが、電子版であれば五万円以内で揃えることが可能である。デジタルデータの利用は、ハード面、ソフト面、ともに技術のめざましい革新によって今後ますます便利になっていくであろう。

弘法大師教学、真言教学、高野山史は言うに及ばず、広く各分野で活用されることを念じてやまない。

今年度第一回密教文化研究所協議会において、『高野山大学密教文化研究所紀要』のWeb公開が決定した。バックナンバーについては、著作権者の許諾を得た上で順次公開していく予定である。

（田寺記）

高野山大学密教文化研究所紀要 第二十五号

平成二十四年二月二十一日 印刷

平成二十四年二月二十五日 発行

編集者 密教文化研究所

代表者 中村 本然

発行所 密教文化研究所

和歌山県伊都郡高野町高野山三八五 高野山大学

電話(〇七三〇)五六―三九〇 番六四八―二八〇

印刷所 株式会社ウイング

和歌山市梶取一七一―二

電話(〇七三)四五三―五七〇〇 番六四〇―八四六四